



【写真】大鷹沢三沢地区の被害写真。令和元年10月14日撮影

これまで経験したことのない大雨
観測史上1位の降水量
市内全域に避難指示

あの災害から1年 ～令和元年東日本台風を振り返る～

昨年の令和元年10月12～13日にかけて東北地方を通過した台風第19号（令和元年東日本台風）は、宮城県に気象庁より初めての大雨特別警報が発表され、市内全域に甚大な被害をもたらしました。本市では24時間降水量が観測史上1位（365ミリ）を更新するとともに、市内全域に避難指示を発令しました。国道113号の大規模な土砂崩れや大鷹沢三沢地区の決壊したため池などの被害の他に、市が管理する道路・河川の被害が36カ所、農業用施設被害が32カ所、農地被害が86カ所におよびました。その他、国や県の管轄する県道や河川などでも多くの被害が発生しました。



▲冠水した国道113号白石トンネルのアンダーパス



▲国道113号福岡蔵本付近の土砂崩れにより通行止めが発生

当時の状況を振り返る

大鷹沢三沢 遠藤友三郎 さん



自然の脅威 突然の濁流！

辺りが暗く雨脚が強くなってきた午後8時半頃、妻から大声で「玄関に水が来ている」と言われ、慌てて玄関の扉を少し開けた時でした。水圧で外れた扉から大量の水が自宅に入り込み、あっという間に家の中に胸の高さまで水が流れ込みました。身の危険を感じ慌てて2階へ避難した時に自宅の電気が消え、暗闇の中、懐中電灯を手に取り周りを照らすと自家用車は水に浮かび、自宅の周りは沼のようになっていました。その日は寒い思いをしながら二階で一晩を過ごしました。

翌日、明るくなってから辺りの情景を見たときに愕然としました。家の中には大量の泥が入り込み、外にあった大きな石塀が跡形もなくなっていました。

何から手を付けたら良いかわからない状況でしたが、友人やボランティアの方たちが手伝いに来てくれたことは今でも忘れられません。泥かきや家財道具の搬出、水に漬かった畳を出すなどの重労働を引き受けていただき、皆さんの協力のおかげで年内に片付けを終えることができました。

今回の災害で自宅は大きな被害を受けましたが、けがもなく命が助かったことは何よりだったと思っています。昔は大雨といえば台風が来た時くらいでしたが、地球温暖化の影響で頻繁に大雨が降るようになってきていると感じます。ハザードマップを軽視することなく、日頃から皆さんも注意して生活をしてほしいです。

身の危険を感じたらすぐに逃げることを、災害をひとごとだと考えずに日頃からの準備が大事だと思います。



1



2



3



4

1_ 遠藤さんの自宅前は濁流と共に流れてきた土砂で埋め尽くされました 2_ 身長を超える水が押し寄せ、敷地のブロック塀の上から2段目の高さまで水が押し寄せました 3_ 地区内の道路は車両が通行できないほどの被害を受け不便な生活が続きました 4_ 多くのボランティアの方が駆けつけてくれました